

みどり



友愛みどり園
ケアホームもやい
移動支援事業所「ふくろう」
相談支援事業所 つむぎ
あごら ビータス
きざし

2026. 2. 1 vol.87

〒276-0040 八千代市緑が丘西 5-20-2
TEL 047-458-7477 FAX 047-459-9541
<https://yokuyu.or.jp>
E-mail: midorien@ca.wakwak.com

新春のお慶びを申し上げます

旧年中は格別のご愛顧を賜り厚くお礼を申し上げます
本年も変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し上げます
皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます



ケアホームもやい

「一日の疲れを癒す くつろぎタイム」

GHでは帰宅してからほっと一息つける時間として、おやつや飲み物をいただく場面があります。利用者の皆さんは、この時間をとても楽しみにしている様子です。日中活動ではそれぞれの仕事（生産活動）で頑張り、頑張りすぎて「あく疲れたー」と思っている方の中にはいるのかもしれません。日中活動で頑張ったあとにGHに帰宅し、ほっと一息つける時間は利用者にとって憩いの時間になっているのではないかと思います。

「ケアホームゆい」の皆さん



は、とても仲が良く、家族のような絆を感じたり、毎日が女子会のような和気あいあいとした日々を送っています。皆さんがゆいに帰宅したあとのティータイムでは、今日一日どんなことがあったか、どんな仕事を頑張ったか等を我先にと職員に報告してくれれます。そんな報告タイムが終わると、いつの間にか職員そっちのけで仲間同士でのおしゃべりタイムが始まっています。中には聞き上手な方もいて、話している方もどこか安心したような表情をしていることが印象的です。

GHへの入居は利用者の皆さんにとっては親元を離れた「自立」という意味合いもあるはずですが、ゆいの皆さんのように気心知れた仲間との「共同生活」という側面も持っているようです。一緒にお茶を飲んだり、お菓子をつまんだりしながら、仲間を意識する時間・環境を保証していくことも私たちケアホームもやいの職員の役割かもしれません。

また、GHの生活は生活の場を共にするだけではあ



りません。先日もナイトドライブと称し、イルミネーションを見に行ってきました。

いつものように日中活動から帰宅すると、この日はティータイムには目もくれず、いつにもなくテキパキと支度をし、再び外へ。ドライブ、イルミネーション、ミッドでのティータイム♡何が一番楽しかったかは本人のみぞ知るといったところでしょうか。本人たちが選んだ写真でバレてしまうかもしれませんが……（汗）

今後も職員は、皆さんにとってGHが安心できる場であり、自分らしくいられる場であり、そして仲間がいることを実感できる場であり、よう配慮を忘れずに利用者のGH生活を支えていきたいと思えます。

は「インクルーシブ教育」について、現在当法人内の放課後等デイサービスを利用されている利用者ご家族に、アンケート特別支援学校や千葉大付属特別支援学校に在籍されているご家族です。皆様のお声をご紹介させていただきます。

受けました。その中にある「特別支援学校や特別支援学級など、障害のある子どもを分離する教育システムを廃止し、書きください。

きやすい世の中にはならないかもしれないと思う。また、もし分離を廃止するのであれば、健常者も障害者もお互いが困らない環境や人員配置が整っていないと難しいと思う。

- ・個別に判断したほうがいいと思うので、「分離を廃止する」だけになると困る。現場の混乱、当事者の困り事が増えるのではないかと懸念がある。
- ・実際の受け入れ態勢は難しいと思う。障害にも種類、程度があるので、ひとくくりに考えるべきではない。
- ・障がい（他にも国籍や性別等）の有無に関わらず双方が刺激し合える事、それが成長につながるのであればとても素晴らしいと思います。ただ、我が子のような重度の知的がある子供が、周りとうまくやっていけるか、受け入れてくれるか、迷惑をかけないかと親として不安というのは、正直な気持ちです。
- ・インクルーシブ教育が息子の就学等に導入されていたら、良かったと思いました。教育員会は、就学先は親が決定して良いとのことでしたが、実際は支援学級の先生が、発語やオムツを理由に受け入れに難色を示しました。特別支援学校で、先生方に手厚く支援していただくのも成長ですが、同じ年の健常のお子さんから学ぶことも多くあると思うので、インクルーシブ教育に移行することは、賛成です。
- ・障害の程度によるかもしれないが、難しいと思う。廃止し、移行というのは厳しいと感じる。

- ・他害がある子はどうしても、他の子に迷惑をかけてしまうので、分離は続けてほしいと思う。障害のある子供への支援が手薄になるだろうと思う。
- ・場面によっては素晴らしいと思いますが、能力の差が大きすぎる子供はなかなか難しい場面が多いと思います。なので今の小中のような美術だけ音楽だけ一緒に学ぶというやりかたはおりませた方がいいかなと思います。
- ・分離する教育システムがあるから障害のある子どもは安心して学べるのではと感じました。
- ・インクルーシブ教育へ移行する為の教員等の教育、環境が整えられるのか不安しかない。
- ・分離する教育システム廃止に反対です。個性を尊重し合うことは大切ですが、同じ場で共に学ぶことは、重度の障害がある子供には引き合わない。

略：八千特（八千代特別支援学校）、
千大特（千葉大付属特別支援学校）

教育現場への願いもありながら、ご家族としての複雑な思いもありました。皆様、率直なご意見をお書き頂いたことに感謝いたします。まだまだたくさんアンケートにご回答頂いています。続きは次号でご紹介させていただきます。

（加莉・木）

友愛みどり園 第24回グリーンフェス

11月15日土曜

日に、地域との共生を目的として第24回グリーンフェスを開催しました。昨年に続き、緑が丘西自治会・近隣の福祉施設・近隣小学校の親の会等の協力の下、利用者と地域の方が直接関わり、互いの理解が自然に深まる場になるよう、準備を重ねてきました。



利用者の様子には、いつもの行事とは違う「前向きな熱」がありました。準備の段階から、「フェスに向けてがんばるぞ！」と声を掛け合いながら、作業をする手がどんどん早くなっていくなか姿が見られました。普段は作業の見通しを持つことが難しい利用者も、このイベントに関しては特別な想いを感じており、「準備、頑張るからお客さん、たくさん来てほしい」と自分から当日に向けた期待を寄せる言葉が出るほど、イベントにかける熱い想いが感じられました。その姿にグリーンフェスは、大きな存在で、誰かのために側業

特集「共生」教育編

2024年度から特集してきた「共生」ですが、最後の「教育編」になります。今回トにお答え頂きました。市内小学校の支援級に在籍されている方のご家族、八千代市

① 日本政府は2022年9月に国連の障害者権利委員会から勧告（総括所見）を「インクルーシブ教育へ移行すること。」をお聞きし、率直なご意見・ご感想を

- ・子供よっての発達の違いも大きく一括りにする事に少しムリがあるように思いました。
- ・すべての子どもが平等な教育を受けるなどの理念はすばらしいと思うが、現実的ではない気がする。
- ・いい事かなと思います。が、何かトラブルがあった場合少し心配です。
- ・非常にむずかしい問題だと思います。コミュニケーションがむずかしいので、言葉ではなく手がでる子もいるし、お世話係みたいな子がでてしまうと申し訳なさを感じます。また親の精神的にもなかなか理解されなかったときや、子どもたちを比較してしまうことも多いのではないかと思います。
- ・障害が重い子には厳しいと思う。支援して下さる先生方のスキル（言い方はよくないですが）だったり、登校は親の付き添いが必須になると思うのですが、ヘルパーさんの支援も手薄な中、負担増のイメージ。自治体格差かもしれませんが八千代市では無理かなと。
- ・仕事で小・中学校に勤務していましたが、分離するからこそ効果的にできる教育が絶対にあると思っているので、画一的にインクルーシブ教育へ、というのは現状に合っていないと思いました。インクルーシブ教育ができれば素敵ですが、そのための人材や環境が今の学校では用意するのが難しいと思います。特別支援学校で色々な学習をしている子どもを見て、支援学校で良かったと思っています。
- ・健常児と障害のある子どもを分離することが全て（100%）悪だとは思えない。障害がある子どもがおだやかに過ごせる環境であれば分離しなくても良いと思うが、一般の学校（普通級）では難しい子どももいるのが現実だと思います。
- ・良い部分もあるとは思いますが、障害のある子ども全員がインクルーシブ教育が適しているとは正直思わないです。交流はあってほしいですが、将来的な自立を考えると分離して教育することの方が適している子もいると思います。
- ・将来的に諸外国のようにインクルーシブ教育に移行するのはよいが、日本の現在のハード面、ソフト面、人材不足面などを統合して考えると、難しいと思うので、現状のままでよい。また、移行したとしても選択できることが好ましいと考える。
- ・私自身（息子）の経験から、「中途半端なインクルーシブはかえって分断を生む」と思っているの、安易に考えてはいけないと思います。
- ・共生がなければ、障害者への理解はすすむことはない、子どもが生まれる前から当たり前になっていけばよかったのに、とずっと思っていました。
- ・特別支援学校に通っているが、とても有難い環境で教育を受けられているので、分離廃止の必要性は感じない。ただ、分離を続けると、健常の人には障害者のことを一生理解してもらえないと思うし、理解が進まなければ、障害者とその家族が生

を強く実感できる機会になっているのだなと感じました。当日、体験や販売に立つ利用者は、最初こそ緊張した様子が見られましたが、地域の方が製品や体験を通し、挨拶や「ありがとう」の声をかけてくれる事で次第に表情がほぐれていきました。そして、最後には利用者自らから笑顔で「どうぞ」と案内する姿も見られました。そこには、友愛みどり園らしさが溢れる時間があり、地域と利用者が、自然に混ざり合う瞬間をみる事ができました。

来場者は昨年より少ない状況ではありましたが、「昨年が楽しかったので、今年も来ました！」という声を頂く事ができました。近年新しい地域住民が増えている状況の中で、「また来たい」と思ってもらえたことは、単にイベントが楽しかったということ以上に、施設に対して関心や信頼が育ち始めている証拠だと実感する事ができました。

今回のイベントを振り返って強く思う事は、来場者の数だけでは測れない「関係性の深まり」があるのではないかと思います。利用者が地域の人と同じ場に立ち、役割を担い、感謝される経験の積み重ねが、地域の中に「ともに生きる」感覚をゆくりと育てていくのではないかと思います。そして、イベントをきっかけに地域の中で友愛みどり園が当たり前の存在となることで、利用者も地域の方も共に見守る関係が生まれ、「互いに支え合う関係」へと変わっていく事ができるのではないかと考えます。

今回のイベントは、利用者の変化と地域との信頼関係の芽生えを感じる時間となりました。私たちの目指す共生は、一度の大きな成功ではなく、小さな出会いと理解の積み重ねによって形づくられるものだと思っています。これからも、地域に開かれ、地域の一部として認められる施設を目指し、利用者と地域の方が自然に混ざり合える場づくりを続けていきたいと思っています。

よくゆう★ぷちねつと わたしたちにもできること 環境の事

今回の「環境のことを考える」「私たちにできることは？」をテーマに八千代市で里山保全活動を行っている「里山ロック隊」の佐々木博幸さんに活動内容などをご紹介します。活動の様子を取り上げていくことで今後私たちにできることは何かを考えていくきっかけになればと思います。

八千代市では、市主催で「里山楽校」という講習会を開いており、その平成28年度第6期生を中心に発足したのが「里山ロック隊」です。毎月2回、約10人が集まって作業を行っており、担当している里山は島田台にあり、草地の平地、樹木林の台地、竹林の窪地と変化に富んでいます。

その里山の作業は、適正と思われる里山の状態にする為に竹の間伐、道路にはみ出した竹の伐採、樹木林に侵入している竹の伐採、枯れた樹木の伐採、草刈り等を行っています。作業することで景観が良くなり、陽が地面に届くことで、「きんらん」や「ぎんらん」などのかわいい花が咲いています。



伐採した竹は、チップ、バイオ炭、フェンス等に利用しています。チップは、歩きやすい様に里山内の通路に敷き詰めたり、防草の為に小学校の校庭の一部に敷き詰めています。バイオ炭は、底が抜けたお椀の様な形をした炭化器の中に伐採した竹を入れて燃やし、炎が出なくなった時点で水をかけて消して作ります。バイオ炭は、土壌改良材として使えますので、畑の土に混ぜ込み野菜を育てることができます。また、八千代台駅周辺のばらから出た剪定枝をバイオ炭にして、元の花壇にばら苗を植える時に使用しました。

竹を燃やせば、二酸化炭素が出ますが、バイオ炭にして炭素の塊の状態ですぐに土壌に入れることで、二酸化炭素の発生が少なくなり、温暖化対策になると思います。

伐採した竹を使って里山周辺にフェンスを作ることで見た目が良くなり、作業が終わった竹林や樹木林はすっきりし、竹や樹木が生き生きと育っている感じがします。そして、整備された場所に花が咲いているのを見つけるとうれしいですね。

さらにロック隊のメンバーは、特技を生かしてロック隊の看板、チーバくん、トトロ、やっちのパネルを作っています。普段使っているテーブル、椅子、新しい倉庫も手作りです。年末には門松作りが恒例です。

やりたい事を皆さんと協調してできることから始め、無理をしない、無理をさせないことで、やりがい生まれ、楽しい活動仲間になっていきます。できることを少しずつでも積み重ねることで、少しでも環境が良くなり、温暖化対策になっていると思うとうれしいです。

里山ロック隊 佐々木博幸

「できることを少しずつでも積み重ねる」という佐々木さんの言葉がとても印象に残りました。環境を考えていくことに近道はなく、日々一人一人ができることの積み重ねによって今よりもっとよい環境を将来に残せるのではないのでしょうか。例えばごみなど落ちているのを気づいたときに拾って捨てるという何気ないことでも将来の環境に繋がるのではないかと思います。今後も環境のため私たちにできることを考えていくことが大切だと思いました。

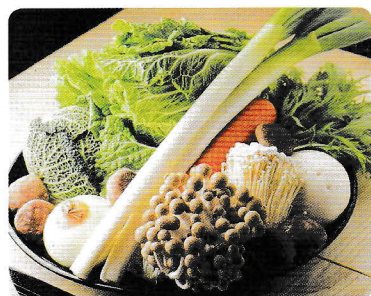
⑥

里山ロック隊の活動風景は、<https://www.facebook.com/rokkutai/> のFBに掲載しており、添付QRコードから見て頂ければと思います。



Facebook QR

★パート16 最近気になる お野菜レシピ 冬野菜



「ワサビみぞれ鍋」伊豆 天城湯ヶ島のご当地料理 3人分

材料	本わさびチューブ	40g 位
	※生わさびNG	
	大根おろし	200g 位
	冬野菜	400g 位
	肉類	200g (なんでも)
	キノコ類	好きなだけ
	豆腐	2分の1丁
	茹でうどん	1玉

つくり方

1. 出汁をはり煮えにくい食材を入れ、中火をかける
2. 具材が、しんなりしたら、大根おろし・ワサビを入れる
3. 蓋をして、3分位弱火。完成
※ポン酢で食べるのもおすすめします ⑦

出汁	水	500cc	酒	100cc
	みりん			50cc
	白だし			50cc
	醤油			10cc
	顆粒こぶだし			5g

